

大和郡山市観光協会・全国金魚すくい競技連盟

金魚のまち・大和郡山の 伝統と文化を伝えたい

大和郡山市観光協会理事・全国金魚すくい競技連盟理事
なかの しげはる
中野 重治さん

奈良県・大和郡山市は、280年近い伝統を持つ金魚の産地。特に、毎年夏に開催される「全国金魚すくい選手権大会」は、金魚のまち・大和郡山の名を全国に広めました。その背景には、厳しい時代を迎えた金魚産業の伝統と文化を伝えていきたいという、まちの人たちの思いがあります。

奈良県
大和郡山市



熱い戦いが繰り広げられる「全国金魚すくい選手権大会」。大和郡山の夏の恒例行事として定着しました



金魚産業を次世代に伝えていきたいと語る中野さん

約280年の歴史を持つ 「殿様お墨付き」の金魚

夏祭りでおなじみの「金魚すくい」は、日本人の郷愁を誘う夏の風物詩です。金魚の産地として有名な大和郡山市では、毎年8月に「全国金魚すくい選手権大会」が開催され、腕自慢の人々が集まります。3分間に1枚のポイ（和紙を張ったすくう紙）で何匹の金魚がすくえるかを競うもので、これまでの最高記録は63匹（個人の部）。技を競う選手権大会は、金魚すくいが好きな老若男女が集い、「金魚のまち・大和郡山」をアピールするお祭りでもあります。金魚の群れを追う人、見物する人、みんなが一緒にあって歓声を上げ、盛り上がるイベントは、今年で11回目を迎えます。

「それが私たちの楽しみなのです」。ただ生産だけではなく、こだわりを持って金魚をつくる。そこには生産者の職人魂があります。しかし、昔ながらの祭りのにぎわいがなくなり、子どもたちの遊びも様変わりした現在、金魚生産も厳しい時代を迎えています。生産者も今では35軒。これは最盛期の約半数です。後継者問題も深刻です。しかし中野さんは「減びさせてはいけません。誰かが金魚生産を支え、時代に合った産業として残していかなければいけない」と話します。

11年を経て大きく育った 「全国金魚すくい選手権大会」

全国金魚すくい選手権大会は、行政、観光協会、市民など、全市を挙げて行う夏の大イベントで、金魚産業をアピールする絶好の機会です。使う金魚は約26,000匹。中野さんをはじめとする金魚生産の組合はもちろん、各種団体や商工会の協力によってすすめられています。会場の空調設備が故障したり、審判の目を盗む違反者が出たり、いろいろな苦労がありました。しかし、11年を経て全国的にも有名なイベントに育ちました。「金魚すくい」として人と人のふれあいが生まれる。知らない同士でも仲良くなる。若者たちには、大和郡山の金魚を知ること、自然と人間の未来を考えてほしいです」と中野さんは語ります。

**金魚は職人技を極めた芸術品
時代に合った産業として残したい**

奈良盆地の中心に位置する大和郡山は、佐保川の清流が潤す城下町です。昔から農業用ため池が多くあり、池に発生するミジンコなどが金魚の餌として適していました。また水害が少ない地域でもあり、金魚産業が発展する地理的な好条件がありました。昭和40年代の最盛期には、年間約1億匹を生産国内だけでなく海外へも輸出していた、文字どおりの日本一の金魚のまちでした。

「今の金魚は、昔中国から渡ってきた金魚とは全然違います。今の金魚やコイは生産者が力量と技術で開発を重ねてきた芸術品なのです。どんな魚ができるか、私たちは希望と意欲を持って取り組んでいます。



大和郡山産の金魚。品種改良を重ねて完成された、一種の「芸術品」です



見事なコイが育つ、中野さんの飼育水槽。生産者としてのこだわりが、より素晴らしい金魚やコイを生み出します

第11回 全国金魚すくい選手権大会

■日 時 8月21日(日)
■会 場 大和郡山市総合公園多目的体育館
■時 間 9:00~17:00
■料 金 見物無料
■お問い合わせ ☎0743-53-1151
(全国金魚すくい選手権大会事務局)